
絵本のひろば

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 中央図書館と連携し、毎月１回幼児、小学生および保護者対象に絵本の読み聞かせを行い、本に親しむきっかけ作りをする。
- 期 間 平成３０年４月～平成３１年３月 第３土曜日 （計１２回）
- 時 間 午前１１時３０分～正午※スペシャル年２回１時間（計７時間）
- 対 象 市内在住又は在勤の幼児～小学生
- 参 加 者 ５０人 参加延べ人数 ９２人
- 講 師 読み聞かせグループ・十二の会
- 事業内容

4月	公民館まつりにロビーで開催 大型絵本・大型紙芝居・パネルシアター	10月	絵本・紙しばい・手遊び
5月	絵本・紙しばい・手遊び 幼児が多かったため、年令に合わせて絵本を変更した。	11月	絵本・紙しばい・手遊び
6月	絵本・紙しばい・手遊び 手遊びを３種類入れた	12月	絵本・手遊び・手袋人形・パネルシアター 十二の会が、折り紙のブーツを配布する
7月	＜スペシャル＞ 絵本・紙芝居・パネルシアター・大型絵本・手遊び・エプロンシアター	1月	＜スペシャル＞ 絵本・パネルシアター・大型絵本・手遊び・大型紙しばい・手袋人形・手遊び
8月	絵本・紙しばい・手遊び	2月	絵本・紙しばい・手遊び
9月	絵本・紙しばい・手遊び	3月	絵本・紙しばい・手遊び

○ま と め

参加し易くなるように、会場をロビーに移したが、増員には至らなかった。夏のスペシャルは各小学校に夏休みの催しのチラシを配布しているので、一定数は確保できていたが、冬のスペシャルは小学校の公開日・インフルエンザの流行などで４名となってしまった。次年度からは、図書館の開館日や時間に合わせたり、スペシャルも小学校の終業当日に合わせて開演する事とした。いろいろ工夫して、参加者を増やし魅力を伝えたい。



こども体験講座 ～ミュージカルダンスにチャレンジ～

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 ミュージカルダンスを体験することで自己表現の楽しさを学ぶとともに仲間作りをする。今年度は簡単な英語でレッスンする内容を盛り込んだ。

○期 間 平成30年7月26日（木）～29日（日）（計8回）

○時 間 Aクラス 午前10時～11時30分

Bクラス 正午～午後1時30分

（計12時間）

○対象・定員 市内在住の小学生・各クラス20人

○参加者 18人 参加延べ人数102人（発表会観客36人）

○講師・事業内容

回	月 日（曜日）	内 容	講 師
1	7月26日（木）	ウォームアップ・曲の練習	RAD（ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス） 認定講師 福田 真紀子
2	7月27日（金）	ウォームアップ・曲の練習	
3	7月28日（土）	A・Bクラスごとのリハーサル	
4	7月29日（日）	合同リハーサル・発表会・写真撮影	

○まとめ

ヨーロッパを中心に「ライオンキング」などの数多くの公演に出演し、現在、英国在住の講師が、帰国の際に子どもミュージカル体験講座を指導してくれる講座として定着している。

今回初めて「英語でレッスン」を取り入れたが、小学校で英語が導入されていることもあって抵抗なく挨拶やレッスンに取り組んでいた。受講者が少なかったため細部まで目の届くレッスンとなり、いきいきと踊っていた。最終日はたくさんの保護者が見に来てくれて、力いっぱいのパフォーマンスを披露し、英語での感想発表もしっかりできた。

4日間という連続講座のためか、参加者が少ないことは残念である。



サマースクール

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 夏休み期間に、ボランティアや市内公共施設等とも協力しながら
青少年の体験学習の機会を提供する。

○期 間 平成30年8月21日（火）～23日（木）（計3回）

○時 間 午前10時～正午、22日は午前8時30分～午後4時30分（計12時間）

○対象・定員 市内在住の小学4年～6年生：30人

○参加者 20人 参加延べ人数58人

○講師 第1回：福井 敏博、第2～3回：環境教育支援ネットワーク
きづき 荻原 洋志、櫻 博子

○事業内容

回	月 日（曜日）	内 容
1	8月21日（火）	いのちを支える光 －5つのひみつ－
2	8月22日（水）	館外学習 （埼玉県自然学習センター）
3	8月23日（木）	小さな地球！（びんの中は持続可能な社会） 閉会式

○ま と め

1日目「いのちを支える光」では①ふしぎな一枚の写真②おそるべし、君は光の本当の正体「電磁波」を知る勇気があるか③破壊ではなく、発展のため④「光」「科学者」そして「広大な道の世界」を柱に学習を行い、講師が用意した分光器でスペクトルを観測した。2日目「自然学習センター」の館外学習で、植物が太陽（熱エネルギー、光エネルギー）をどのように利用しているか学習した。3日目ビンにミミズ、植物、土を入れて「小さな地球」を製作し、光合成について学習をした。また、全員で模造紙にまとめを作成し、これをロビーに展示をした。

内容的には全体的に充実していたと思われる。定員が30名のところを20名と少なく残念でした。その原因は何か、日程、期間、テーマ等、少しずつ変更をして見極める必要があるように思う。



にいざ親子料理教室

～クリスマスのお菓子作り・ブッシュドノエル～

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 小中学生の親子を対象に、地元食材を使った季節の料理を作る。
- 期 間 平成30年11月10日（土）
- 時 間 午前10時～午後0時30分 （計2.5時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・10組
- 参加者 10組21人 保育4名（保育サポーター2名）
- 参加費 1人800円（材料代）
- 講師 管理栄養士 鈴木香
- 事業内容 新座市の食材も使って、親子でクリスマスの人気菓子「ブッシュドノエル」を作る。

○ま と め

今回はクリスマスの料理のなかでも人気のあるお菓子ブッシュドノエルを作る講座を企画したところ、すぐに定員に達した。先生のデモンストレーションに続いて親子で作業に取りかかった。

講座への参加理由として「親子で料理ができる」をあげた人が多く、親子料理というコンセプトは成功しており、「子どもと楽しい時間を過ごせた」という感想が多かった。親子で役割分担して作業する様子は微笑ましく、同じ班の親子同士で協力したり、教え合ったりする様子が見られ良かった。

新座市の食材ということで、季節の果物の柿を使用した。



ブッシュドノエル

歴史講座～伊勢物語を読む～

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 「伊勢物語」の主人公とされる在原業平は各地で様々な伝説を残しており、新座市でも平林寺の中の業平塚がある。業平の伝説を学ぶ。

○期 間 平成30年9月29日～10月27日（毎週土曜日）（計5回）

○時 間 午後1時30分～3時30分

10月6日は、館外学習（平林寺：業平塚）午後1時30分～2時30分
（計9時間）

○対象・定員 市内在住・在勤・在学の成人・40人

○参加者 41人 参加延べ人数140人

○講師 国文学研究者 棚木 恵子

○事業内容

回	月 日	内 容
1	9月29日	第十、十一段 武蔵野と古典
2	10月 6日	館外学習（平林寺）中止
3	10月13日	第九段 旅の文学、旅のころ ①
4	10月20日	第九段 旅の文学、旅のころ ②
5	10月27日	第二十三段 男が女に飽きる時

○ま と め

伊勢物語は昨年に引き継いで2年目となった。すぐに定員に達し、人気の程が伺われる。受講者の年代別は、40代－1名、60代－6名、70代－19名、80代－3名（アンケートによる）と高齢者が多いが、皆さんとても熱心にメモを取り聴講していた。「古典が身近に感じられた。」「一人で読んでもその奥に秘められたものまではなかなか解らないが、講義で深く理解できて嬉しかった。」等の意見があり、まさに生涯教育の場となった。講演は、時代背景や貴族社会の生活や想いにまで言及されて興味深いものでだった。平林寺の館外学習は台風の被害で中止となった。課題としては、大和田と中央が午前・午後と重なってしまったことが挙げられる。



七タロビーコンサート

～笛とピアノのアンサンブルによる名曲の調べ～

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 公民館のロビーを会場に、地域の方々に、本物の芸術や文化を身近に感じ、見たり、聞いたりして今後の人生に活かしてもらう。今回は、フルート・オカリナ・リコーダー・ピアノのアンサンブルを楽しむ。

○期 間 平成30年7月8日（日）

○時 間 午後1時30分～3時（計1.5時間） ※午後1時開場

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人

○参加者 81人

○講師 横小路瑞葉、白石純子、竹下麻美

○内 容

月 日（曜日）	内 容		
7月8日（日） 中央公民館ロビー ※開場準備 前日午後2時～ ロビー立ち入り禁止	第一部 ・愛の挨拶 ・シャコンヌ ・泣かせたまえ ・小鳥愛好家の楽しみより ・歌の翼による幻想曲 ・愛の夢 第3番	休憩 10分	第二部 ・オカリナ紹介 ・いつも何度でも ・コンドルは飛んで行く ・山寺のおしょうさん ・大黄河 ・川の流れのように ・日本の四季メドレー ○みんなで歌おう ・七夕様・見上げてごらん夜の星を ・ハナミズキ

○ま と め

七タロビーコンサートは今年で4年目を迎えた。当日受付も含め81名の参加があり、そのうち75%が70、80代で、地域の方に、身近な公民館で、芸術に触れてほしいという目的は達成できたといえると思う。

＜感想＞

- ・終わってしまうのが寂しいような楽しいひとときでした。
- ・心のこもった設営、とても和やかな演奏、素晴らしい雰囲気でした。



家庭教育学級企画準備会

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 地域の保護者及び教師と連携して開催する家庭教育学級講演会の企画準備会

○期 間 平成30年6月13日～平成31年1月23日までの水曜日
(ただし、1月12日の講演会は土曜日) (計7回)

○時 間 午前10時～正午 (計14時間)

○対象・定員 第五中学校、八石小学校、栗原小学校、野寺小学校の保護者10人及び中央公民館職員

○参加者 11人 参加延べ人数73人

○事業内容

回	月 日 (曜日)	内 容
1	6月13日 (水)	今までの経過説明と本年度家庭教育学級について
2	7月11日 (水)	講演テーマ・講師候補について
3	9月12日 (水)	講師の決定について
4	10月10日 (水)	役割分担、保護者への通知及び参加者名簿の作成について
5	12月12日 (水)	参加者・保育希望者人数の最終確認、当日のタイムスケジュールについて
6	1月12日 (土)	家庭教育講演会準備及び講演会
7	1月23日 (水)	反省会

○ま と め

家庭教育学級は、平成9年～16年まで実施した後中断し、平成22年度から5校と中央公民館共催で7回、平成29年度からは片山小が抜けて4校で実施した。

各校から選出された役員2～3名と中央公民館職員で、小・中学生の保護者向けの講演会を企画した。今年度は、思春期を迎える小学校高学年・中学生となる子どもを持つ親を対象に、アドラー心理学をベースにした子育て術であるコミュニケーションの取り方を、コーチングにより分かり易く学習することとした。

また、平成27年度の8月の企画準備会・講演会準備時の保育要望や、対象を小学生低学年に広げた保育についての要望があり、今年度も引き続き対応した。子どもを持つ保護者の活動にとって必要な対応であるので、今後も続けていきたいと考えている。

反省会では、家庭教育学級を合同で行わなくてもよいのではないかという意見と、企画から関わることを経験ができて良かった。という両意見があった。

4 校合同・中央公民館共催 家庭教育学級講演会

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 地域の保護者及び教師と連携し家庭教育について学ぶ。
- 期 間 平成31年1月12日（土）
- 時 間 午後1時30分～3時30分 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・100人
- 参加者 100人
- 保育 29人（内未就学児14人・小学生15人）
- 講師・事業内容

回	月 日（曜日）	内 容	講 師
1	1 月 1 2 日（土）	「子どものチカラを育むコミュニケーション ～子どもと本音でつながるために～」	講師：眞鍋登喜子

○ま と め

7月に開催した第2回家庭教育学級企画準備会に於いて、講演テーマ及び講師の候補を協議した結果、アドラー心理学をベースにしたコーチングについて、元養護教諭の眞鍋登喜子氏に依頼する方向になった。小中学校共通のテーマとして「子どもとのチカラを育むコミュニケーション」とした。

講師は元養護教諭であり、学校現場の経験を交え、講義ではペアワークを実践した分かり易い内容であり、アンケート結果も参加者100名中60名の方から回答があり、半分以上の方が「大変良い」との評価であった。



パソコン指導者講習会

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 (アルゴリズム体験ゲーム)「アルゴロジック」によるプログラミング入門
- 期 間 平成30年11月27日(火曜日)
- 時 間 午前10～正午 (計2時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤のパソコン指導者をめざす方・15人
- 参加者 10人
- 講師 一般社団法人電子情報技術産業協会 電子部品調査役 大山 裕
- 事業内容 「アルゴロジック」を体験して、プログラミング教育の場で使用する際のポイント等についての紹介

○ま と め

「アルゴリズム」の開発者である電子情報技術産業協会の大山裕氏を講師に迎えての講座はとても興味深いものであった。パソコン指導者を対象にしているので、参加の目的を確認するところから始まり、アルゴリズムとは何か、ソフトの使い方等の説明があった。受講生の中に講師を務めていて本ソフトの導入を考えている方も複数いて、熱心に受講していた。実際にゲームを進めて行くうちに、プログラミングの基礎となる論理的思考(アルゴリズム)をゲーム感覚で習得ができる事が良く分かった。アルゴロジックの位置づけ、初歩であるが、小学生の導入として良いと思う。また、成人でも楽しくゲームができ、講師から「時々目を休めてください。」と注意されるほど、皆さん夢中になっていた。インターネットから無償でダウンロードができ、普及できたら良いと思った。受講生からも好評を頂いた。



女性講座「家族みんなで考えよう・女性視点の防災講座」

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 災害時、女性が安心して避難生活を送るために必要な知識を学ぶ。

○期 間 平成31年1月19日（土）

○時 間 午前9時～午後1時（計4時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・150人

○参加者 113人

○講師 危機管理課：大坂悦子、保健センター、
新座消防署、堀ノ内病院（看護部）

○事業内容

回	月 日（曜日）	内 容
1	1月19日（火）	(1) 女性視点の防災講座 (2) 救急救命実習（AED、負傷手当、煙体験） (3) ボランティアによる炊き出し

○ま と め

一部では、女性が防災を学ぶことの重要性、避難生活で必要となる知識、また、新座市内の防災情報等について、危機管理課・女性職員を講師に迎え講義していただいた。

二部では、消防職員による実習体験（AED、救命、煙等）、最後にボランティアによる炊き出しの試食体験で終了。長時間の講座にも関わらず、定期的に講座を行ってほしいというリクエストがあるくらい好評であった。

阪神淡路大震災から24年、1月15日から21日は防災とボランティア週間であるので今回、この土曜日に実施とした。地域の町内会や病院も多大なる協力をいただいたことにより成功することができた。公民館講座ではあるが、参加者全員で作り上げた講座になった。



異文化交流セミナー ～スウェーデン～

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 異文化について理解を深め、国際交流を推進する。
- 期 間 平成31年2月26日（火）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人 （保育付き）
- 参加者 27人 （保育2人）
- 講師 一般社団法人 スウェーデン社会研究所 代表理事・所長
明治大学教授 鈴木 賢志
- 内 容 スウェーデンという国や国民性について知り、「日常生活、時間の管理」について考える。
- ま と め

参加者は順調に集まり、定員を40人に増やした。全体の1/3を男性が占めるのは異文化交流セミナーならではのと思う。講師は10年間現地に住み、その後も学生を伴って年1回訪れたという事で、より具体的な国の様子を伺えた。例えば、消費税25%、徴兵制、ノーベル賞がスウェーデンにもたらすメリット、女性の役割、教育費無料の利点などで生活者の姿が見えてとても楽しく充実した内容であった。また、写真やデータが多く分かり易かった。アンケートでは「新しい世界を知ることができ新鮮で興味深かった。日常とかけはなれた世界を知るのはすばらしく、ひとときの精神的充実感を得られる公民館講座はとても大切だと思う。」という意見があった。まさにその通りだと思う。また、幅広い世代に参加して頂くために保育付きとしたが、子育て世代が対象か？保育の内容か？などの問い合わせがあり、誤解を招いてしまった。工夫が必要だと思う。

総じて、国民性などその国の人々の感覚を知ることができ、楽しい時間を過ごせた。



子育て応援講座「ひよこ学級」

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 幼児期の子を持つ保護者が、子育てについて学ぶ機会を作り、仲間づくりの支援をする。

○期 間 平成30年9月7日から10月19日 毎週金曜日 (計7回)

○時 間 午前10時～正午 (計14時間)

○対象・定員 市内在住又は在勤の2歳から3歳幼児と保護者・20組

○参加者 14組と4名(保護者のみ) 参加延べ人数 101人

○保育 14人

○参加費 500円(実習材料費)

○講師・事業内容

回	日 時	内 容	講 師	参加数
1	9月 7日(金)	開講式・自己紹介・3B体操	3B体操指導者 大和田恵美	8人
2	9月14日(金)	保育心理学	十文字学園女子大学幼児教育学科 教授大宮明子	14人
3	9月21日(金)	からだにやさしいお菓子作り	料理研究家 木野村比呂子	13人
4	9月28日(金)	子どものチカラを育むコミュニケーション	メンタルコーチ 眞鍋登喜子	14人
5	10月5日(金)	家計の話	武蔵野友の会	13人
6	10月12日(金)	スマホ育児を考える	子育てが楽しくなるママカフェ 杉本千春	11人
7	10月19日(金)	子育てと起業(公開講座)	green ivy 椿谷咲子	13人

○ま と め

アンケート結果からも、全7回の講座をバランス良く設定したので楽しみながら受講できたようだ。乳児を抱っこして参加した人も3名おり、育児中の親がさまざまな情報を得たいと考えていることが伺えた。また、座学だけより話し合いなどのコミュニケーションを望む声が多い。また、今後は保護者自身がリフレッシュできるような内容も盛り込みたい。今年度はなかなか定員が埋まらず、保護者のみの参加も可としたが、子どもの年令によって聞きたい情報が違うなど、講座を企画する難しさも考えられ、検討していく必要がある。

癒やしの講座「草木染」

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 身近にある草木を使い、家庭でも染められる安全な材料を使って、草木染に挑戦する。
- 期 間 平成31年1月17日（木）
- 時 間 午前10時～午後3時30分 （計5.5時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人
- 参加者 17人
- 参加費 1,300円（材料代）
- 講師 草木染め研究家 小林善江
- まとめ

募集は初日に定員に達し、講師のご好意でキャンセル待ちの2名も参加することができた。当初、紅梅の枝を使用する予定であったが、用意できなかった。（講師、公民館ともに捜す）当日は講師が持参したインド茜を使用する。作品はきれいな茜色で、参加者にも喜んで頂けた。昼食時も共に染色をしながら、講師からいろいろな話を伺うことができ、有意義な時間を過ごして頂けたようだ。



癒やしの講座「初めての大人バレエ入門」

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 あこがれのクラシックバレエを体験し、心豊かな時間を過ごし、健康維持を図るとともに、自身の生きがいとなる趣味を見つけるきっかけとする。

○期 間 平成30年6月2日・9日・16日・30日の土曜日 計4回

○時 間 午前10時30分～正午 （計6時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人

○参加者 20人 保育7人※保育サポーター2名

○講師 ちかバレエスタジオ代表 藤原千佳

○まとめ

美しい姿勢や筋肉を作るのに役立つ「クラシックバレエ」を大人向けの講座として企画した。小さい頃からバレエに憧れていたという人は多く、希望者が多いのではないかと考えたが、10代から60代まで幅広い年代の方に受講していただいた。床のストレッチ、バーを使ったレッスン、フロアーのレッスンという構成で90分間みっちりと体を動かした。バレエは初めての方がほとんどだったが、講師が受講生の状況に合わせて進めてくれたのと、バレエ独特の手の使い方、姿勢、立ち方、顔の向きなどわかりやすく説明してもらったのでとても満足度が高かった。音楽に合わせて動きをゆっくりと踊るのは難しかったが、バレエの楽しさを実感でき、当初の目標は達成できた。

保育を付けたので、若い方の参加が多かった。



CO₂削減 緑のカーテンで夏を涼しく

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 ゴーヤ等でグリーンカーテンを作る方法を学び、環境対策について考える。

○期 間 平成30年6月12日（火）

○時 間 午前10時～正午 （計2時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人

○参 加 者 15人

○講 師 環境まちづくり地域協議会 in にいざ代表 櫻 博子ほか2人

○事業内容

回	月 日（曜日）	内 容
1	6月12日（火）	(1) 地球温暖化が及ぼす影響と環境対策について (2) グリーンカーテンを作る方法・質疑応答

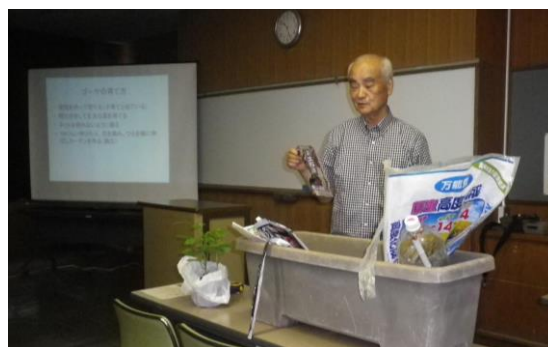
○ま と め

地球温暖化を抑えるためにCO₂を削減することが大切である。一人ひとりが無理なく取り組める方法として、ゴーヤでグリーンカーテンを作ることを提案し、実際のゴーヤの苗を使って、土壌づくりから植栽、摘芯、摘み取りまで、具体的な育て方の説明を行った。受講者からの質疑にも細かく答えて頂いた。

受講者からは、「農作業のプロの技術と経験談を聞けて良かった。」「以前からゴーヤ作りをしていたが、実が小さく、数も少なかったので今回参加をした。講座を参考に育てたい。」などの感想が寄せられた。

最後に、受講者がグリーンカーテン作りを实践できるよう、ゴーヤの苗が1人2株ずつ配布された。

今回は、各館が別々に募集をしたのが分かり易かったのか、参加者が増えた。



カメラ撮影基礎講座

- 開設の趣旨 写真に興味があり高額なＡＦ一眼レフでなくとも、コンパクトカメラ以上で、写真の楽しさを学びたい人、自信を持って見せたい人、メカニズムが難しいと思っている人などが、気負うことなく気軽に写真が撮れるテクニックを写真家から学ぶ。
- 期 間 平成３０年４月２８日、５月１２日・２６日、６月２３日、１０月２７日、１１月２４日、１２月８日・２２日（各土曜日）
- 時 間 展示会は２月２日から８日（金）まで（全日）（全１６回）
午前９時３０分～正午、撮影会は午前８時３０分～午後４時３０分、
展示会は午前９時から午後５時（計８１．５時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・２０人
- 参加者 １１人（延べ８７人）
- 講師 写真家 福永 一興
- 事業内容



No.	月 日（曜日）	内 容
1	平成３０年４月２８日（土） 午前９時３０分～正午	写真のもつ奥行きについて
2	平成３０年５月１２日（土） 午前９時３０分～正午	館外で実習（花：旧古河庭園）
3	平成３０年５月２６日（土） 午前９時３０分～正午	実習に対する解説と講評 宿題提示
4	平成３０年６月２３日（土） 午前９時３０分～正午	宿題に対する解説と講評
5	平成３０年１０月２７日（土） 午前９時３０分～正午	宿題に対する解説と講評
6	平成３０年１１月２４日（土） 午前９時３０分～午後４時３０分	館外で実習（紅葉：長瀬（月の石もみじ公園））
7	平成３０年１２月８日（土） 午前９時３０分～正午	実習に対する解説と講評
8	平成３０年１２月２２日（土） 午前９時３０分～正午	作品展用作品候補解説と講評 作品展準備
9	平成３１年２月２日（土） ～２月８日（金）全日	作品展設置と撤収、解散式

○ま と め

３年目を迎えるカメラ撮影基礎講座は、そのテクニカルは自分で解決する。カメラの性能はもちろん、自分で構図を決め絞りとシャッタースピード、明暗、被写体角度などいろいろと自分の感覚で撮影する。もし、それがうまくいかなかった場合は先生に指導を受けるなど、自力で解決することが目的。

今回の撮影会は、旧古河庭園でバラを中心に撮影を行った。受講生は、撮影基礎を頭でルーティングさせながらシャッターチャンスをつかっていた。また、長瀬の月の石もみじ公園は、市のバスを使って全員出席の中向かったが、ピークが既に終了してため撮影場所を探すのが大変であったが、各々それなりに撮影をしていた。

テクニカルを真似るのではなく、自分で感じ前に進む、それを評価して更なる段階へステップアップする。今後を期待したい。

作品展は、１人３点の作品を受講生自ら展示して、今回は１週間と短くしたが６９名の来館者を迎え、作品の説明等を行った。

人権を考える

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 当館利用者を対象に人権について学習する。
- 期 間 平成30年10月6日（土曜日）
- 時 間 午前10時40分～11時15分 （計35分）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・101人
- 参加者 74人
- 事業内容 利用者懇談会の中で、ビデオ視聴「マララー教育を求めて闘う少女」により人権問題について学ぶ。
- まとめ

中央公民館利用者懇談会時に、参加した利用者を対象に上映した。

DVDの内容は、イスラム社会における女子教育の必要性を訴えて活動していたパキスタンの少女マララ・ユスフザイは、タリバンの標的となり銃撃された。治療のためパキスタンから英国に緊急搬送され、奇跡的に回復。現在は英国に住み、女子教育のための活動を続けている。

マララは危険な目に遭いながらも、なぜ世界に訴え続けるのだろうか？教育をうける権利とは？

平和ボケしている日本では、当たり前のことが当たり前のこととして享受できる環境にある。私たちも教育を受ける価値について、改めて考えてみたいと感じた。



スマホ入門講座

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 スマートフォン初心者やこれから使用を考えている人を対象に、基本的な操作、使用上の危険性及び災害時の利用方法などを学ぶ。

○期 間 平成30年11月1日（木）

○時 間 午前10時～正午（計2時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人

○参 加 者 20人

○講 師 KDDI認定講師 三島 将生

○事業内容

月 日（曜日）	内 容
11月1日（木）	・スマートフォンってなに？ ・メールの発信・受信、インターネットの使い方 ・災害時の利用方法・災害対策アプリ

○ま と め

スマホ講座は、近年スマホの普及率が高くなっていることから、人気が高く、すぐに定員に達した。受講者は、購入を考えている方や購入したが使用法がわからないという場合が多い。今回も昨年に続きシニア向け内容ということもあり約9割の方が60歳以上でそのうち半数は70代だった。講師のユーモアあふれる講義に、活発に質問したり、近くの人と教え合ったり、楽しく学ぶことができた。また、実際のスマホを操作しながら、音声入力やゲームを使ったタップの練習、電話のかけ方等の講義だったので理解しやすかった。

アンケートでは、「大変良い」「良い」が95%でたいへんよい結果となったが、この講座ですべて理解できたわけではなく、今後もこのような講座の希望が多かった。

この講座をなにで知ったかについては、全員が新座市の「広報ニイザ」から情報を得たと答えており、高齢者の場合、広報の重要性が高い。



水彩画入門

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 果物や花などの静物をモチーフとした水彩画の入門講座を開講する。子育て中の方も参加できるよう保育付きとする。
- 期 間 平成30年7月5日～26日（毎週木曜日）（計4回）
- 時 間 午前10時～正午（計8時間）
- 対象・定員 市内在住・在勤・在学の成人・15人
- 参加者 14人 参加延べ人数54人（保育2名）
- 講師 水彩画講師 前川博
- 事業内容

	日 時	モチーフ	内 容
1	7 月 5 日	野菜、果物	形の入れ方、置き方
2	7 月 1 2 日	ひまわり、花々	形の前後、上下関係
3	7 月 1 9 日	剥製	形の大小、方向性
4	7 月 2 6 日	人形、こけし	個、群

○ま と め

1回毎に描き終え、講評を頂いた。講師の熱心な指導により、初めは仕上がらない方々も、回を追うごとに時間内に仕上げる事ができ、皆さん描くことに夢中で楽しそうであった。同じモチーフでも製作者の個性がスケッチブックに表現され、一列に並べられた作品を全員で鑑賞し講師に講評をして頂くのは、少し緊張をし楽しい時間であった。保育付きのため、若い方の参加があり、男性の参加2名と幅広く参加して頂けたのは良かった。



初めての陶芸

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 初心者を中心に造形の喜びや難しさ、そして達成感を体得し、新たな発見を体感しながら陶芸を学ぶ。
- 期 間 平成30年10月30日～11月20日（毎週火曜日）（計4回）
- 時 間 午前9時30分～正午、（計10時間）
- 対象・定員 市内在住、在勤の方・10人
- 参加者 10人 参加延べ人数 37人
- 講師 遊の会 下瀬弘志 他3名
- 事業内容

	日 時	出席者数	主 題
1	10月30日	9人	作陶、形成
2	11月6日	9人	素焼き、基礎知識
3	11月13日	10人	下絵付け、基礎知識、釉薬掛け
4	11月20日	9人	講評

○ま と め

作業は予定通りに進められ、講師（4名）の丁寧な指導により、初めての人が9人だったが、全員楽しく作る事ができた。「新しい体験ができて嬉しかった。」という意見が多く有り、当初の意義は達成できたと思う。素焼きで大皿が1枚割れてしまったが、他の作品は皆無事だった。全体的に見て、1回目の作陶と3回目の釉薬掛けの時間が不足して少し慌しく、2・4回目の時間が余ったので、トータル10時間であっても、時間を割り振るなどの工夫が必要だと思った。又、高台を作るのであれば、1回目の翌日にその日を作る必要がある。

参加者の皆さんに満足していただける講座になったと思う。



夏の夜の怪談話

〈中央公民館〉

- 開設の趣旨 日本に伝わる民話・怪談を朗読や話劇で楽しむ。
- 期 間 平成30年8月3日（土）
- 時 間 午後5時～6時 （計1時間） 午後4時30分開場
- 対象・定員 市内在住又は在勤の親子・60人
- 参加者 75人 （子どもの人数 25人）
- 講師・事業内容

回	月 日（曜日）	内 容	講 師
1	8月3日（土）	1 話劇 ・草の丞の話（江國 香織） ・赤い月 （阿刀田 高） ・怪談 牡丹灯籠 （三遊亭園朝） 2 墓場でヨーヨーつり	話劇みのり 代表 山田 順子

○ま と め

今回は、大人だけの参加も認めたので、大人の参加が2/3となった。予約は52名であったが、当日は75名になってしまい、部屋がぎゅうぎゅうで、冷房も効かず大変暑い部屋での公演となってしまった。演目はどれもすばらしく、引き込まれるようでした等、好評で次回もとの要望が多かった。子どもも魅了されてか、静かに最後まで聴いていた。墓場でヨーヨーつりは参加者が10名と少なく、力を入れたので残念であった。大人が主体となれば、ヨーヨーつりは必要が無かったかもしれない。6回目を迎え、参加者も増加傾向にあり、人数と部屋のバランス（暑い）等考える必要がある。文化・芸術面ですばらしく、講座を通じて皆さんに提供できたことはとても良かったと思う。



人形劇フェスティバル企画準備会

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 市内及び近隣で活動する人形劇グループの合同公演を企画し、日程、準備事項を協議する。

○期 間 第1回 平成30年6月14日（木） 顔合わせ、日程調整、役割分担
第2回 平成30年9月28日（金） チラシ印刷 （計2日間）

○時 間 午前10時～正午 （計2時間）

○対 象 市内で活動する人形劇団6団体

○参 加 者 10人（人形劇あおむし、人形劇どんぐりっ子、人形劇団ラ・ペ、おはなしカスタネット、おはなしオルゴール、ふろしき座（欠）公民館担当）

○決定事項

① 開催日 11月18日（日） 午前10時開演

② 準備 11月17日（土） 午後1時（舞台準備） ※当日は午前9時集合

③ 会場割

（ア） レクリエーション室（大きい子）→あおむし、どんぐりっ子、ラペ、ふろしき座

（イ） 視聴覚室（小さい子）→カスタネット、オルゴール

④ 広報活動

（ア） ポスター、チラシの作成及び配布（ポスター80枚、チラシ745枚）

（イ） ポスター、チラシの原稿は、人形劇あおむしが作成にあたる。

（ウ） 人形展示は、11月1日にガラスケース1台を事務室前に置き、展示する。
布（2～3枚）を用意する。ラ・ペ、おはなしオルゴール担当。

（エ） 中央公民館が大看板を設置する。展示の看板は、人形劇団で用意する。

（オ） 市の広報およびホームページに掲載する。

⑤ その他

（ア） 電話等で最終日程決定。演目も決定したら中央公民館に連絡する。

（イ） 今年度はラ・ペが、舞台、照明を持参。

（ウ） 公民館で用意する物は、マイク式2台、ピンマイク式1台、延長コード、暗幕、黒ガムテープ、机（2）、パイプイス、畳（視聴覚室、レク室用）、パネル2支柱4、CDデッキ、電子オルガン

（エ） おみやげ→折り紙で作る指人形（カスタネット） ※折り紙は公民館で用意

（オ） 終了後和室で反省会。茶菓を用意する。お昼のお弁当（人形劇団の方で用意）

（カ） 終了後に1フロビーでぞうきりんがお見送りをする。（観光推進課申し込み）

（キ） 保健センター駐車場借用（事前に借用願提出）

第 2 5 回人形劇フェスティバル

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 市内で活動する人形劇グループの合同公演を通じ、子どもたちの情操を高める。

○期 間 平成30年11月18日（日）

○時 間 午前10時～正午（計2時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方（子どもを含む）・100人

○参 加 者 113人

○講師・事業内容

会 場	演 目（団体名）
＜大きい子の部屋＞ レクリエーション室	10:00～12:00 ・ぶんぶくちゃがま（ラ・ペ） ・赤ずきん（どんぐりっ子） ＜休憩・手品＞ ・てんぐだいこ（ふろしき座） ・まんまるパン（あおむし）
＜小さい子の部屋＞ 視聴覚室	10:00～10:50 ・ねずみのすもう（おはなしオルゴール） ・さんぼ 他（カスタネット）

○ま と め

25回目という事で毎年楽しみにしている方も多く、今年度は113名の参加があった。申し込み時は小さい子の希望が多く心配したが、当日受付が35名おり、ほぼ同数になった。今年度は1団体が参加しなかったが、時間的には6団体でちょうど良かった。大きい子向けの演目は人形、セット、照明、音響が本格的な人形劇で、子どもだけでなく大人も楽しめた。休憩時間の手品も楽しくとてもよかった。小さい子の部屋は歌や手遊びも多く、抱っこで参加している小さなお子さんも親も笑顔だった。

昨年から和室を乳児連れの方の休憩室としたが、オムツ替えに利用するなど有効だった。



事務室前に人形展示



終了後1フロビーにぞうきりん登場！

フリースペース企画準備会

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 障がいのある人もない人もともに地域で豊かに暮らす、障がいのある人との出会い・ふれあいの場を企画する目的で１９９２年にスタートした。様々な事業の企画・立案をしている。

○期 間 平成３０年４月２５日（水）～平成３１年３月６日（水）
（計３回）

○時 間 午後２時～３時 （計４時間）

○対 象 市内在住又は在勤の方

○参 加 者 ７人 参加延べ人数２８人

○事業内容

回	月 日（曜日）	内 容
１	４月２５日（水）	・バスハイクについて ・中央公民館まつりについて ・新春ロビーコンサートについて
２	６月１２日（火）	・平成３０年度バスハイクの実施報告及び反省 ・ひなまつりコンサートの出演者について ・平成３１年度バスハイクの日程について
３	２月１７日（日）	・ひなまつりコンサートの準備について ・平成３１年度バスハイクについて
４	３月 ６日（水）	・ひなまつりコンサート結果及び反省会

○ま と め

企画集団・フリースペースと連携して、障がいのある人もない人もともに楽しめるバスハイクやコンサートについて、障がいのある方も気軽に参加し、楽しめる内容を企画した。

５月に開催したバスハイクではバスの座席を指定席にするが食事時には自由席にすることで参加者の交流が図れるのではないかという提案がなされた。

また、今回は例年１月に開催した新春コンサートではなく、３月にひなまつりに因んでコンサートを開催することなどの積極的な提案があり、参加者に大変喜ばれた。

フリースペースひなまつりコンサート ～マンドリンの調べ～

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 体験事業を通して、障がいのある人もない人もともに交流する場とする。

○期 間 平成31年3月2日（土）

○時 間 午後1時30分～3時30分（計2時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人

○参加者 89人

○講師 新座マンドリンクラブ

○事業内容 マンドリン演奏

回	月 日（曜日）	内 容
1	1月27日 （土）	第1部 1 うれしいひなまつり 2 愛の挨拶 3 プリンク・プランク・プルンク 楽器照会 4 花は咲く （休憩）甘酒タイム 第2部 1 セレナーデ風ガボット 2 青い山脈 3 津軽海峡冬景色 4 椰の実 5 ふるさと

○ま と め

6月12日（火）に開催したフリースペース企画準備会でロビーコンサートの内容を協議した結果、マンドリン演奏を市内サークルの「新座マンドリンクラブ」に決定した。事務局で出演の正式依頼をしたところ、快く引き受けていただいた。広報ニイザ2月号、HP、ポスター・チラシで呼びかけを行った結果、89人の参加があった。第1部はクラシック音楽を含めた5曲、第2部は童謡や懐メロ6曲の演奏で、アンケートを提出してもらった47人の約81%が「大変良い」という感想であった。休憩時間中に、参加者には準備していた甘酒（ノンアルコール）を振る舞ったところ、大変おいしいと好評であった。

フリースペースバスハイク

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 体験事業を通して、障がいのある人もない人もともに交流する場とする。

○期 間 平成30年5月25日（金）

○時 間 午前8時00分～午後5時00分 （計9時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人

○参加者 29人

○参加費 2,000円（高速道路代等）

○事業内容

回	月 日（曜日）	内 容
1	5月25日（金）	◎ いちご狩り（小松沢レジャー農園） ◎ 秩父そば食事 ◎ 酒造見学（秩父錦・酒づくりの森）

○ま と め

今も企画集団・フリースペースが県のリフト付きバス「おおぞら号」を借り、障がいのある方もない方も共に1台の車で、秩父を訪れ交流を図った。

いちご狩り農園は車椅子対応の水耕栽培であったため、全員が楽しめた。また、食事も店舗貸切と併せて、事前に注文済であったので、待ち時間はなく予定通りに昼食がとれた。

酒づくりの森では、エレベーターが無いため、車椅子利用者が見学出来なかったことが残念ではあったが、酒蔵（貯蔵庫）の見学は参加者全員が出来たので良かった。また、酒蔵（貯蔵庫）の入室時には日本酒の香りに歓声を上げ、酔う参加者もいたようである。

また、往復の渋滞についても想定内に収まり、当初のスケジュールは変更をすることなく履行することが出来たので、健常者と障がい者が共に楽しめる有意義な企画となったと思われる。

参加者から「とても楽しかった。来年も参加したい」などの感想があった。



ロビーふれあいサロン

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 公民館で気軽に時間を過ごし、子どもから高齢者に至るまで地域のコミュニティの拠点として開催する。

今回は、映画やコミックで話題になっている百人一首を楽しむ集いを中央公民館のサークル「百人一首の会」を講師に開催する。

○期 間 平成30年8月1日（水）

○時 間 午後1時～3時 （計2時間）

○対象・定員 地域の方・20人

○参加者 15人

○講師 済間こと（百人一首の会）
アシスタント 2名

○事業内容 ちはやふる～百人一首を楽しもう～

○まとめ

申込みは70代を含め16名であったが、70代の方が欠席され、付添いの保護者も見学のみであったため、小中学生の15名が参加。

講師の済間さんが、横手さんともう一人の方にお手伝いして頂き、読み手と各班に分かれて2回の指導をして下さった。

映画「ちはやふる」の影響もあり、また小中学校のクラブや生徒会で大会を行っていることがあるようで、競技大会さながらの勢いがある捕り手の子が居るかと思えば、ルールも分からず寝そべて体全体でかるたをとる子もいた。そして、行儀について指導者に注意されると機嫌が悪くなり、参加しないポーズをとる子については指導者も手こずっていた。

しかし、基本的には参加者（子ども）は楽しんでいた。また、興味が更になくなったと思われる。最後には、覚え方一覧を渡し終了した。

講師の感想としては、年末にはまた、このような講座を行っていただきたいとリクエストがあった。



実年セミナー

〈中央公民館〉

○開設の趣旨 中高年を対象に幅広い趣味や教養を広げるとともに仲間作りをして、今後の生きがいづくりのきっかけとする。

○期間 平成30年7月4日・11日・18日 水曜日 (計3回)

○時間 午前10時～正午 (計6時間)

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人

○参加者 21人 延べ人数55人

○講師・事業内容

回	月日(曜日)	内容	講師
1	7月4日(水)	新しい趣味を見つけよう～ダーツに挑戦～	公益社団法人日本ダーツ協会常務理事A級指導員 小林美和
2	7月11日(水)	伊能忠敬没後200年～50才から日本地図を作った男～	伊能忠敬研究会副会長 鈴木純子
3	7月18日(水)	シニア世代の健康な食事	女子栄養大学生涯学習講師 新井麻子

○まとめ

昨年まではテーマを決めて実施していたが、今年度はテーマは設けず幅広い内容を取り上げてみた。第1回は高齢者でも取り組めるダーツに挑戦することにした。ダーツ協会に依頼し、器具を送ってもらい、A級指導員の指導の下、2種類のゲームを楽しんだ。初めての方がほとんどだったがルールの説明がわかりやすく、知らない人同士でも和気藹々で楽しんだ。第2回は没後200年の記念の年でもあり、50才から第2の挑戦をした「伊能忠敬」について取り上げ、関心も高かった。第3回は、最近よく聞かれる「アクティブエイジング」という言葉を元に具体的な食生活について話を聞いた。

「実年セミナー」という言葉は1985年に当時の厚生省が公募し決定した50歳代・60歳代を指す言葉だが、一般には普及しなかった。現代では50～60歳代はまだまだ働き盛りであり、平日の公民館の講座を受ける状況にはないと思われるので日程や内容について検討が必要である。

